



大英國租稅說

上卷

2997



114
A1985
1



例言四則

一首卷ハ全編ヲ翻譯シ、後卷ハ要旨ノミヲ抄譯ス
 一 一里ハ我十四町羊ト十三間強ニ當ル
 一 一介ハ我百二十一匁六分ニ當ル
 一 磅ノ價格ハ、彼我通貨ノ價格ノ貴賤ニ從テ相變
 スルカ故ニ、一定スヘカラサレド、大抵我五圓ニ
 當ル、是ヲ以テ、一疇吟ハ我二十五錢、一片ハ我二
 錢強ニ當ルナリ

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

大
義
省

目次

首卷

第一章 大英國ノ資財、英國費ノ事ヲ論ス

第二章 課税ノ原理ヲ論ス

第三章 課税ノ方法ヲ論ス

第四章 租税ノ名實同シカラサルモノヲ論ス

第五章 家入、及資産税

第六章 所出税

第七章 職業、及文業税、郵便税

第八章 府縣税、及門関税

後卷

第一章 税課ノ厚歛ヲ論ス

第二章 穀類、加非、砂糖、茶等ノ費額ヲ論シ、倚シ

テ課税ノ多寡ヲ計ル事

第三章 酒精及烟草ノ費額

第四章 各人民ノ家入ニ課スヘキ税ヲ論ス

第五章 營業税ヲ論ス

第六章 所出税 物品ノ費用スル

第七章 税額ノ外課税アルカ為ノニ拂フヘキ

費額ヲ論ス

第八章 租税説ノ要結

大英國租税説卷之一

第一章

大英國ノ資財先國費ノ事ヲ論ス

吾輩ハ先ツ思考ヲ大英國ノ資財ト幅員トニ就テ
起サントス、抑、大英ハ蕞尔タル二小嶋ヨリ成立シ
タルモノニテ、幅員僅ニ十二萬方里ニ過キス、之レ
ヲ地球ノ上ニ觀レハ、恰モ一彈丸ノ渺々タル大洋
ニ浮ヘルカ如ク然リ、然ルニ其富強ノ宇内ニ冠タ
ルハ、何ソヤ、亦唯天賦ノ豊富ト人民ノ勉勵トニ由
レルノミ、其外國ヲ征服シ、又ハ民ヲ移シテ荒土ヲ
開墾シ、以テ版圖ヲ廣メタル、茲ニ二百五十年、加
奈陀西印度、西亞非利加、澳大利、諸國ニ於テ

獲タル所ノ地四百五十萬方里ニシテ其人口一億
五千五百萬アリ、此人皆吾大英ノ正朝ヲ奉スルナ
リ、又今ヲ距ル凡ソ百許年前ヨリ以來、利番ヲ製シ、
百エヲ獎メ、且開化ノ進歩ニ緊要トスル所ノ蒸氣
及ヒ鐵道ノ二大器ヲ發明スル事ニハ最モ力ヲ盡
シケルカ、遂ニ能ク成業シテ之レヲ百般ノ事ニ使
用シタリシヨリ通商大ニ開ケ、其運漕船ノ萬國ニ往
來スルノ繁キ恰モ白帆ヲ以テ海面ヲ蔽フヘルカ
ト疑フハカリニテ、百貨ノ貿易實ニ盛昌ヲ致シ、然
カモ其輸出入額ノ統計ハ五億萬磅ノ多キニ至レ
リ、此ノ如ク諸業盛大ニシテ生計優饒トナリケル
ヨリ、人口繁殖シ家屋ノ稠密ヲ致シ、歐羅巴諸大國
ト雖モ遠ク及ハサル所トナリテ、現今ハ人口三千

萬以上ニ及ヒタルカ故ニ、獨リ我耕作物ノミヲ以
テ之レカ食料ニ供セントスレハ、纔ニ其人口四分
ノ三ニ給スルヲ得ラル、位ノ丁ナリ
百エヨリ獲ル所ノ利益大ニ増加シタルヲ以テ、國
民ノ歲收速ニ多キヲ加ヘ、其概計每歲八億萬磅ニ
登レリ、而シテ其内ノ三億二千五百萬磅ハ、毎週傭使
セラル、所ノ職工ノ手ヨリ獲ルナリ
全國ノ財産ハ動産不動産ヲ合セテ六十億萬磅ハ
多キナレド、大抵ハ地主ト財主トノ有スル所ニシ
テ、其地主財主ハ全國ノ人口ニ較フレハ鮮ナキカ
故ニ、巨額ノ財産ハ僅少ノ人ノ手ニアリト謂フモ
不可ナル丁ナシ
國債ハ凡ソ八億萬磅有海公債証書アリ此利足ト

レテ租税ノ内ヲ以テ毎歲二千六百六十萬磅ヲ拂
フナリ其高ハ則チ國民ノ歲收八億萬磅ノ百分ノ
三ト三分ノ一二當ルナリ
本國ノ防禦ト屬國ノ守衛トノ為メニ陸軍ヲ備フ
其費用一千五百四十萬磅ナリ又邊海ヲ防禦シ通
商ヲ保護センカ為メニ海軍ヲ備フ其費用一千百
二十萬磅ナリ之レヲ合スレハ二千六百六十萬磅
トナル即チ國民歲收ノ百分ノ三ト三分ノ一二當
ルナリ
邦内ヲ統治スルカ為メニ政府ヲ設立シ治民外務
司法驛通學校收稅等ノ省局ヲ置ク其費用總額一
千六百萬磅トナル即チ國民歲收ノ百分ノ二ニ當
ルナリ

諸ノ都府城市ニ於テ貧民ノ救濟巡吏ノ設備道路
ノ修繕石路ノ布置瓦斯燈ノ點火溝渠ノ浚淘港口
ノ開設橋梁ノ構架市場ノ設置等ノ費用ハ縣稅ノ
内二千二百五十萬磅ヲ費ヤス即チ國民歲收ノ九
ノ百分ノ三ニ當ルナリ
右ニ開陳シタル國債ノ利息海陸兩軍ノ費額官吏
ノ費額及ヒ縣費ハ我國費ノ四大目タリ乃チ其總
計九千五百五十萬磅許ニシテ國民歲收ノ九ノ一割
尙分五釐ニ當ルナリ今左ニ右ノ費額ヲ分項シテ
其要ヲ知ラシムヘシ
一千八百六十八年ノ調査

○資財人口幅員

幅員

拾二萬方里

人口 三千萬
 歳收ノ概計 八億萬磅
 財産ノ概計 六十億萬磅
 國債 八億萬磅

○歳出

但シ租税ヲ收集スルノ費用ヲ合ス
 國債ノ利息 二千六百六十萬磅
但シ國民歳收ノ百分ノ三十三
 海陸軍ノ費額 同
 内政ノ費額 一千六百萬磅
但シ百分ノ二
 縣費濟貧 二千二百五十萬磅
但シ百分ノ三
 共計九千一百五十萬磅
但シ國民歳收ノ百分ノ十一半ニ當ル

○輸出入額

輸入額 二億七千五百萬磅
 輸出額 二億二千五百萬磅
 共計五億萬磅

○屬國ノ幅員及ヒ人口

幅員 四百五十萬方里
 人口 一億五千五百萬

右ニ掲載シタル所ノ資財其他ノ事ハ固ヨリ吾人ノ幸福ヲ進ムル基礎ナレ氏甚タ驚クヘキノ巨額ナリ、今夫ノ人口ノ多キト富ノ優饒ナルトヲ見レハ、天下ノ中心ニシテ萬國通商ノ一大市場トイフモ不可ナルトナキナリ、抑能ク此盛大ヲ保有スル所以ノモノハ、兵勢ノ萬國ニ邁越シタルヲ以テナリ、而シテ永ク此勢ヲ維持スルハ一國ノ經濟宜キヲ

得ルト人民銳意以テ其費用ノ資ヲ供スルトヲ以テナリ然レモ其費途ハ宜ク務メテ節省セシムルハアルヘカラス抑商ヲ專業トスル國ノ人民ハ物産ノ市價賤直ナルニアラサレハ其業ヲ維持スル能ハサルカ故ニ吾輩ハ各自テ勉テ浪費ヲ省却シ只管物産ノ隆盛ニ至ランコトヲ冀望スルナリサレハ其政府タルモノハ勉強節儉ノ字ヲ箴言トシテ守テスルハアルヘカラス

第二章

課税ノ源理ヲ論ス

課税均同ノ事ハ亞當私密斯氏箴言ヲ發シテヨリ思想家皆之ヲ服膺スルナレモ實際施行スルニ至テハ其方法ニ許多ノ抗論ヲ來スヘキ點ヲ有セ

リ然レモ私密斯氏及ヒ昔時ノ經濟家ハ課税ハ各人ノ家入ニ比シテ定ムヘシト説キタリ因テ今左ニ私密斯氏ノ第一ノ箴言ヲ録示スヘシ

各國ノ人民其政府ヲ維持スルカ為メニ各宜ク務メテ其力ニ應シタル租税ヲ納ムヘシ乃チ力ニ應スルトハ政府ノ保護ニヨリテ享クル所ノ利益ノ量ニ應スルヲイフナリ

此箴言ノ意ハ貧富トモ各其家入ノ多寡ニ從テ權衡ノ公平ナル賦課ヲ為スヘシトイフナリ乃チ今英國ニ於テ實際ニ行ハル所ノ課額ハ家入ノ一割ニ當ルカ故ニ右ノ箴言ニ從フ中ハ左ノ割合トナルナリ

上 富家 家入 五百磅 家入税 五百磅

中 職工 同 五百磅 同 五十磅

下 工夫 同 五十磅 同 五磅

然ルニ、ベンザム氏及ヒ、弥兒氏其他近來ノ經濟學士ハ右ノ割合ヲ公平ナルモノト為サスシテ大ニ之レト抗論ヲナセリ、乃チ其論旨ニ曰ク、貧者カ要事ニ費用スル内ヲ一割減殺シテ出スモノヲシテ富者カ自便ノ為ノカ乃至ハ奢侈物ノ為ニ費用スヘキ金額ノ内一割ヲ減殺シテ出スニ比角スレハ、貧者ノ困難ハ果シテ奈何ソヤ、抑貧者ノ家入ハ日常缺クヘカラサル費用ナルカ故ニ、此ニハ必ス輕課スルカ乃至ハ免税スヘシト、此論間、家入税論者ノ主論トナレリ、然レ氏余ハ謂ラク、直税ノミヲ課シテ間税ヲ課サ、レハ或ハ實行スルヲ得ヘケ

レ氏、直間ノ兩税ヲ併行スルニ至テハ決シテ行ハルヘカラサルナリト、何トナレハ、家入ノ最少ヲ免稅セントスルニハ其方法ヲ得ル丁極テ難ケレハナリ、又仮ニ之レヲ得ラル、モノトセン乎、適當ニ免スヘキ額ヲ定ムルニ至テハ復タ言フヘカラサルノ困難ヲ生セサル能ハサルヲ奈何シ、故ニ現行ノ課税ニハ必ス他ノ方法ヲ求メスンハアルヘカラス、乃チ其方法トハ必需品ノ税ト貧者ノ費用品ノ税トヲ免シ、又夫ノ人民ヲ惡習ニ透引スル物品即チ烟草酒類ノ如キニハ重課シテ其惡習ヲ鋤却スル是レナリ、是レ其免税セント欲スル標目ニ的中シタル方法ニシテ且經濟方法ニモ亦採用スヘキ所ノ主議ナラスヤ、因テ今余ヲ持論ニ據テ、私密

斯氏ノ箴言ヲ折衷シテ左ノ方法ヲ得タリ

第一

人生必須ノ資用ニ給スル所ノ費額ハ免税スヘシ

第二

人ヲ愚習ニ誘引スル如キ物品ニ費用スルヲ金額ニハ重課スヘシ

第三

各人民己ニ必須ノ費用ニ給シ了テ猶ホ餘リタル所ノ家入ニハ其餘リタル量ノ多寡ニ從テ課税スヘシ

第四

租税ハ誠ニ明瞭畫一ナルヲ要ス故ニ必ス專

横不均ナル勿レ

第五

凡ソ一切ノ收税ハ宜ク人民ノ納致ニ最モ便利ナル方法ト最モ便利ナル時日トニ於テ行フヘシ

第六

各種ノ税ハ金庫ニ實入スルモノ、外ハ務テ薄收スヘシ

此方法ハ「私密斯」氏カ説キタル三者ノ所入トハ異ナルナリ、但シ納税者ノ位置ハ恰モ優饒ナルモノト看做シテ左ノ割合ヲ得タリ

上	富家	家入	五千磅	家入税	五百磅
中	職工	同	五百磅	同	四十五磅

下工夫 同 五十磅 同

三磅十時吟

此割合ニテハ下等ノ人民ヨリ收ムル税額ハ減ス
ヘケレ氏上等ノ人民カ奢侈物ニ費ヤス額ニハ厚
歛スルヲ以テ得失相償フニ足ルヘシ然レ氏右ノ
割合ハ其營業ノ性質ヲ論セス各同額ノ家入ヲ平
均シテ豫算シタルモノナリ然ルニ動産不動産及
ヒ工業等ヨリ得ル所ハ何レ氏自ラ其實ノ異ナル
アルカ故ニ宜ク斟酌シテ賦課セシナルヘカラス

第三章

課税ノ方法ヲ論ス

前章ニ説ケル所ノ如キ課額ハ何等ノ方法ヲ用テ
以テ收集スヘキノ持ニ一種ノ税ヲ課シテ收集ス
ヘキヲ將タ「私密斯氏」ノ説ニ從テ上中下トモ均シ

ク其家入ニ一割ヲ課シテ收集スヘキヲ必ス能ハ
サルヘシ抑方法ノ此ノ如ク苛酷ナルハ人民ニ於
テ皆厭フ所ニシテ富者ト雖モ之レヲ觀ハ喫驚ス
ヘシ而ルヲ況ヤ貧者ヲヤ仮令強テ之レヲ施行セ
ントスルモ決シテ實際ニ行ハルヘカラス何トナ
レハ貧窮ニシテ之レヲ納ムルノ力ナキハ年賦
納ヲ請フヘク政府憐テ之レヲ許サハ必ス又延期
ヲ請フヘク己ニ此ノ如クナレハ仮令延期ヲ許ス
トモ到底收ムル丁能ハサルヘシ夫レ熟ラ人間社
會ノ情状ヲ觀ルニ人民ヲシテ租税ヲ負ハシメシ
トニハ一種ノ税ノミヲ偏課センヨリハ之レヲ數
種ニ分チテ公平均一ナル徴收ヲナスニ若カサル
ヘシ試ニ看ヨ兵卒ノ行囊ヲ負フヲ負紐其所ヲ得

サレハ偏歪シテ負フヘカラス、故ニ其中心ヲ得セ
シメンカ為メ常ニ腦力ヲ煩ハシテ新様ヲ造リ其
負紐ノ堅スル所ヲ易フレトモ猶ホ多少ノ緩緊ア
ルカ為メニ、或ハ心肺ノ疾ヲ發スルモアリ、或ハ骨
節、拘攣ヲ訴フルモアリ、今夫ノ租税モ亦此レニ
似タルアリテ、人民ハ重荷ヲ負ハサルヲ得サルカ
故ニ、其調理ノ宜キヲ求メ之レヲ各人ニ分賦シテ
疾病ノ患ナカラシメテ負擔ノ苦訴ヲ熄メシメス
ンハアルヘカラス、夫レ國費ノ大ナル獨リ一種ノ
税ノミヲ以テ之レヲ償ハントスルキハ負擔者何
ヲ以テカ堪フヘケンヤ、故ニ宜ク偏課セスシテ之
レヲ數種ニ分賦シ以テ公平均一ニ收徴セスンハ
アルヘカラス、因テ之レヲ公平均一ナラシメンカ

為メ千思萬考シテ數法ヲ按シ出シタレ、奈セン
却テ此レカ為メニ困苦ヲ來シ、國家ニ疾病ヲ醜釀
シ、漸ク衰弱ノ色ヲ顯ハシタルニ租税ノ負擔ハ益
重キヲ加ヘ、骨節ノ拘攣ヲ起シ、四肢ノ運動ヲ害シ、
終ニ自由ニ家業ヲ營ムトヲ得サラシメ、且血液ノ
循環ヲ止メ、活潑ノ精氣ヲ弱メ、腦部ノ病患ヲ釀シ
タルカ故ニ、大氣ヲ呼吸シ、光線ヲ受ケ、新鮮ノ食ヲ
喰フトヲ得ル能ハサラシメタリ、此艱苦ヲ除却セ
ンタメ政學家ハ多年苦慮シタレ、其改革ヲ完全
ナラシメンニハ尚ホ研究セスンハアルヘカラス
ル所ノモノアリ
借兵卒ノ行囊ハ、總督ノ考究ヲ以テ終ニ能ク負紐
ノ新様ヲ製造シ、且良食ヲ給与シテ行囊ノ行量ヲ

輕クシタルカ為メニ、兵卒ハ其勞小許ニシテ之レ
 ヲ負フニ堪フルヲ得タリ、今夫ノ納稅者ノ租稅
 ヲ負フハ猶ホ兵卒ノ行囊ヲ負フカコトクナレハ、
 總督タル政學家漸ク其課法ヲ釐革シ數件ノ新法
 ヲ設ケ、以テ偏壓ノカヲ分離シ、亦能ク負擔ニ堪
 ルヲ得セシメタリ、然リ而シテ政學家其力ヲ勞スル
 丁少ナクシテ此ク之レヲ全成センメタルハ、畢竟
 人民ノ勤ムル所多キニ由ルト謂ハサルヘカラス、
 果シテ然ラハ以テ人民ニ謝セスンハアルヘカラ
 ス
 一千八百四十一年以降ヨリ稅種頗ル減セリ、然レ
 此猶ホ存スルモノ尠ナカラス、依テ今之レヲ八種
 ニ分チ、以テ知ルニ易カラシム

海關稅

家入并資産稅

畿田稅

國產稅

家稅

雜種稅

印紙稅

郵便稅

右八種ノ内ニハ或ハ數種ノ租稅ヲ含蓄シタルモ
 ノアリ、此區別タル固ヨリ道理アリテ定メタルニ
 アラス、只舊ニ仍テ設ケタルモノノミ、但シ收稅法
 ハ此區別ニ關セサルナリ
 海關稅ハノルマン人來リテ我國ヲ征シタル以前
 既ニ之レアリシナリ、抑、此稅ハ海路或ハ橋梁ヲ歷
 テ輸出入スル所ノ物品ニ課スルヲ以テ名ケテ之
 レヲ舊價稅トイフ、然ルニ現時ニ至リテハ多ク輸
 入物ニ課シテ他ノ物品ニ課スルハ甚タ鮮シ、乃チ
 此輸入物ニ課スルノ稅ハ我大典「マゲナカル」タノ

中ニモ記載シタリ

國產税ハ一千六百二十六年ニ始テ起シタルモノナリ、抑此税ハ内國物産ノ價ヨリ抽ク所ノモノナルカ故ニ之レヲ國產税トイフ、然ルニ此税ハ幾時ナラスレテ廢止シタリレカ、一千六百四十三年ニ至テ議院ノ條例ヲ以テ麥酒類、林檎酒、梨酒等ニ税ヲ課シタリ、是レ終ニ永久ノ税トハナレリ、且獨リ内國物産ニ課スルノミナラス内地ノ物産賣買税、鐵道税、獸獵税、犬税等モ此部中ニ込メタリ、家税ノ起リハ初メノルマン人我國ヲ征シタルキ烟筒税ト稱シテ之レヲ各烟筒ニ賦課シテ以テ集收シタル是其濫觴ナリ、然ルニ是亦中頃廢絶シタリシカ、第二世「チャルレス」王ノ時ニ至テ竈税ノ名

ヲ以テ之レヲ再興シ、又第三世「ヴェリヤ」王ノ時ニ至テハ家作ノ形狀ト窓牖ノ多少トニ從テ課税シタリ、是レヨリ終ニ一般之レヲ家税ト云

印紙税ハ昔時和蘭國土邊國ト戰ヒタリシ頃錢幣ニ乏シクシテ頗ル軍須ニ困ミケルヨリ國中へ若シ良策ヲ献スル者アラハ莫大ノ恩賞ヲ與ヘント布告シタリシカハ、忽チ印紙税ノ方法ヲ献シタル者アリテ果シテ採用セラレタリ、是レ一千六百七十四年ノ事ナリ、然ルニ英國ニテハ一千六百七十二年ニ至テ始メテ採用シタリ、然レモ獨リ遺書ニ課スル丁ハ一千六百九十四年ニ至ル迄ハ施行セザリシナリ

抑印紙税ノ性質ハ他ノ税ト異ナリテ、唯諸證文及

其 他ノ文紙類ニ賦課スレノミナラス、保險稅遺
書稅遺物稅相續稅營業稅賣藥稅等ヲ含ムルナリ
家入稅ハ一千七百九十八年ニスル、ポルト氏ノ發
明シタル所ト信セリ

縣稅ハ諸稅中最モ曰キモノニシテ、彼ノ「ヘ」アタル
キ一 昔時英國七王ノ管轄シタル 頃各郡ニ課シタル郡費
ノ曰式ニ仍リタルモノナルヘシ
蓋シ我租稅ノ區別ハ、多ク歴史上ニ據テ定メタル
モノナレハ、稅種ヲ解剖スルノ用ニ供スルコト能ハ
サルナリ、何ヲ以テ之レヲ解剖スルノ用ニ供スル
能ハストイフ、國產稅印紙稅ノ如キニ至テハ異質
ノモノヲ含ムコト甚タ多クシテ、其區別判然ナラス、
專ラ曰慣ニ仍テ定メタルモノナレハナリ

右ニ說示シタル所ハ專ラ稅種ノ區別ヲ分解シタ
ルモノナレトモ、更ニ眼ヲ經濟ノ點ニ轉シテ之レヲ
視ルキハ、則チ經濟家々常ニ著書上ニ租稅ヲ區別ス
ルニハ學理ノ定言ヲ以テスルコトヲ知ル、其區別ト
ハ、則チ餉直稅地稅得益稅給料稅家ハ稅物品稅證
券稅郵便稅裁判用文紙稅縣稅等是ナリ、此ノ如キ
區別ハ道理ヲ以テ論スルキハ頗ル聞クヘキ所ア
レトモ、其大要ヲ揭示セントスルニ至テハ實際上困
難ニ堪フヘカラサルモノアラシ、故ニ宜ク他ニ區
分方法ヲ考ヘスンハアルヘカラス、然ハ則チ他ノ
區分方法トハ何如、最モ單一ナル舊法ニシテ即チ
直間ノ二稅是ナリ、ソモ直稅トハ直接ニ徵收スル所
ノ稅ニシテ、納稅者自ラ納ムル所ノ稅ヲイフ、家稅

ノ如キ是ナリ間税トハ間並ニ徴收スル所ノ税ニ
シテ收税官ト納税者トノ間ニ舛スル者アリテ之
レヲ納メ而メ又之レヲ納税者ニ負ハシムル所ノ
モノヲイフ海関税國産税ノ如キ是ナリ然レ氏此
區分タル固ヨリ税課ノ性質ニ由ラスシテ其課税
ノ落ツル所ニ由テ設ケタルカ故ニ未タ以テ相當
ノ區別トハナスヘカラス何トナレハ家入税ノ如
キ地主自ラ納ムル片ハ直税トナリ借地人ヨリ納
ムル片ハ間税トナルヲ以テナリ然ルニ幸ニ此ニ
一ノ良法ヲ得タリ抑是良法ハ税課ノ源質ニ付テ
設ケタルモノニシテ最モ記臆スルニ容易ナルカ
故ニ其益スル所少カラズ然レ氏經濟學家ノ論議
中ニハ未タ曾テ見サル所ノ語ナリ即チ左ノ如シ

第一 所入税

即課一切ノ所入額
ニ課スルノ費用ナリ

第二 所出税

即チ各人ノ費用ナリ物
品ニ課スルノ費用ナリ

右ノ區別ハ昔時ヨリ我歴史上ニ見ル所ノモノニ
シテ第一ノ所入税ハ郡費中ニマリ第二ノ所出税
ハ海関税中ニアリ然ルニ右所入税ハ封建時代ノ
直税法ニ似所出税ハ昔日ノ間税法ニ類シタリ何
トナレハ家入資産税ノ方法タルヤ有税品又ハ
家入額ヲ領スル所ノモノハ決メ連カル、丁能ハ
不必ス納メサルヲ得サル所ノモノアレハナリ又
所出税ハ納税者カ隨意ニ減少スルヲ得ヘキモノ
ニシテ若シ費用者其費用ヲ節省スレハ則チ納額
ヲ減スル丁ヲ得ルナリ蓋シ我カ國税ニハ所出所
入兩税ノ内孰レカ一ハ關係セサルヲ得サルナリ

然ルニ又茲ニ一法アリ其法ヤ或ハ所入ニ落チ或ハ所出ニ落ツルヲ以テ之レヲ第三ニ置クト云

第三 營業稅 卸便稅

昔時封建タリシ頃此ニ稅ヲ直稅トシテ賦課セシハ甚タ異トスヘキナリ又經濟家ハ之レヲ間稅ト考ヘタリ然レモ二說孰レモ妥貼ナラサレハ論究スヘキ點頗ル多シ

府縣稅ハ其性質錯雜シテ或ハ地主ノ家入ニ落チ或ハ借地人ノ所出ニ落ツルヲ以テ其區別判然タラサルナリ故ニ之レヲ平均ニ區分スルハ經濟學中最モ緊要ノ問題ナリト雖モ甚タ至難ノコナリ因テ之レヲ第四ニ置キ而メ其說明ハ則チ後章ニ譲ルト云

第四 府縣稅 門閤稅

第四章

租稅ノ名實同シカラサルモノヲ論ス

允ソ我稅種ヲ區分シ其首屬ヲ判然ト分チテ之レヲ整頓指示スルハ事煩雜ニ涉ルヲ以テ因倦ニ堪ヘサル所アレモ余ハ切ニ望ム看者暫ク寛容アラシムヲ抑斯ク冀望スル所以ノモノハ各種ノ稅ヲ比較シ其比例ノ明瞭ナルモノヲ得以テ國用ニ對シテ果シテ適合スルヤ否ヲ知ル丁ハ最モ緊要ノ事ナレハナリ而メ先ツ歲入額ノ内純粹ノ租稅ハ幾分アルヤヲ決セサルヘカラス蓋シ我歲入ハ今ヨリ前九ヶ年ノ間ハ每歲平均七千萬磅アリ又府縣稅ハ每歲増殖シテ今ハ二千二百五十萬磅ニ登

リタリ、因テ之レヲ統計スルハ九千二百五十萬磅
トナルナリ、又一千八百六十八年ノ年度ノ金額ア
リ即チ左ノ如シ

國稅

府縣稅

共計九千二百十萬磅

右共計ノ内ニハ畿田ノ餉直ト郵便稅トアリ、ソモ
畿田ハ國用ノ一部分ニシテ尋常ノ租稅ヲ生スル
モノトハ其實全ク異ナルカ故ニ除去セシハア
ルヘカラス、又郵便稅ハ一種ノ商業ニシテ其賃錢
モ殊ニ廉ナルカ故ニ其收入ハ租稅ト同一ノ考ヘ
ヲ用フヘカラス、又港入費門關稅ノ如キモノ又ハ
ゴルポレーシヨシ會社種類ノ共有財產及ヒ遺失物

逸畜其他雜種等モ亦除去スヘントス、但シ右各科
目ノ收入ヲ一千八百六十七年ヨリ八年ニ涉リタ
ル會計年度ノ金額ニ據テ算計シテ左ノ額ヲ得タ
リ

○國稅ノ内

- 畿田稅 三十四萬磅
- 郵便稅 三百二十三萬磅
- 雜稅 二百五十九萬磅

○府縣稅ノ内

- ゴルポレーシヨシノ共有財產 五十萬磅
- 港入費 二百三十四萬磅

共計九百萬磅

國稅府縣稅、共計九千二百十萬磅、内右ノ
九百萬磅ヲ差引トキハ

純額八千三百十萬磅

但シ全國收入概計額八億萬磅ノ百
分ノ十ト三分ノ一以上ニ當ルナリ

然ルニ右純額モ猶ホ未タ之ヲ純粹ノモノト謂フ
ヘカラス、何トナレハ、官吏ノ給料、養老銀、其他年給
等總テ租稅ノ内ヲ以テ支給セラル、者ヨリ納ム
ル稅銀ハ尋常ノ租稅ト異ナレハナリ、故ニ宜ク之
ヲ除去スヘシトス、乃チ之レヲ除去シテ算計スル
トハ凡ソ七千六百萬磅ヲ得ルナリ、全ク是レ全國
收入ノ概計七億二千萬磅ヨリ收ムル所ノ稅額ナ
リ、然リト雖モ、全ク人民ノ家入ヨリ收ムル所ト年
給等ノ如ク租稅ヲ以テ支給スル者ヨリ徵收スル

所トノ區域ヲ判然分クルトハ、實際上ニ於テ為ス
能ハサルトナレハ、此計算ハ到底所謂言フヘクシ
テ行ハルヘカラサルモノナリ、是ヲ以テ右純額八
千三百萬磅ヲ現行ノ租稅金額トシテ姑ラク据置
乃チ其之レヲ生スル所ノ源由ヲ確定スルトニ進
ムヘシ

第五章

○第一類 家入花資産稅

家入稅資産稅ノ二ツハ、諸稅中ノ第一位ニ居ルモ
ノニシテ多クハ一年百磅以上ノ家入ヲ得ルモ
ノヨリ納稅スルナリ、而シテ百磅以上ノ家入アル者
ノ所得ノ全額ハ四億萬磅ニシテ大抵全國收入ノ
半額ナリ、抑稅ヲ負フヘキモノ、種類多シト雖モ、

之レヲ要スレハ二項トナルナリ、乃チ各人ノ家入ヲ以テ拂フモノト資本ヲ以テ拂フモノトノ二ツ是レナリ

○第一項

家入ヲ以テ拂フ税

第一種

家入ノ資産税

六百十七萬七千磅

此税ハ土地、家屋、諸資本、金、諸營業、給料、年俸等各種ノモノ、家入ニ課スルナリ、乃チ一千八百六十七八年ノ會計年度ニハ、各人ノ家入額一磅ニ付五片ノ割合ニテ右ノ收額ヲ得タリ

第二種

餉直税

百零九萬三千磅

此税ハ舊税ニシテ元來一個年ノ餉直ヲ計リテ一磅ニ付四疇吟ノ割合ニテ課スルヲ定額トセシカ、漸ク減少シテ土地、家屋ノ餉直平均百分ノ一二低下シタリ

第三種

裁許税及ヒ手数料

二十一萬八千磅

此税ハ家入ト資本トニ落ツルナリ

右三種ノ合計七百四十八萬八千磅

○第二項

資本ヲ以テ拂フ税

説話漸ク進入シテ既ニ資本ヲ以テ拂フ税ノ點ニ達シタリ、抑、家産税ハ家産ヲ承継スル者之レヲ承継スル時ニ方テ拂フナリ、然ルニ此税ハ承継者ニ

回ノ損耗ヲ為スノ理トナルナリ、何トナレハ家産
ノ一部分ヲ殺キテ納税スル是レ一ノ損耗ナリ、又
右一部分ヲ納メスレテ年々之レヲ使用スレハ若
千ノ益ヲ生スヘキナレト之レヲ納ムルカ為メニ
其益ヲ得ル能ハサル是レ二ノ損耗ナリ、又遺産税
ハ家入税ノ如キ公平ナルモノニ較フレハ一段苛
酷トナルナリ、其故ハ家入税ハ遺産税ノ如ク資本
ヲ殺クコトアラサレハナリ、譬へハ茲ニ拾萬磅ノ家
産アランニ之ニ遺産税ト遺産税トヲ合シテ其家産
ノ百分ノ二ヲ課スレハ二千磅ノ税ヲ納ムル理ト
ナルヘシ、サスレハ二千磅ノ資本ヲ失フノミナラ
ス此二千磅ヲ使用スレハ一年ニ百分ノ四分五厘
ノ益アリトナス中ハ二千磅ノ上ニ毎年九十磅ノ

損耗ヲナスナリ、又終身家産ヲ有スルノ年限ヲ三
十三年ト假定シ、其年限中ニ得ル所ノ利益ヲ美ス
レハ二千九百七十磅ヲ拂フノ理トナルナリ、サス
レハ其内二千磅ヲ減スルニ尚ホ九百七十磅ノ損
耗アリ

資本ハ内ヲ以テ遺産税ヲ拂フカ為メニ資本ヲ減
却スルコト少ナカラス、又資本ヲ減却スルカ為メニ
課税ノ收額三分ノ一ヲ損スルナリ、因テ平均百分
ノ二ノ遺産税ヲ課スルキハ納税者一員ノ家入ニ
二磅十三時吟四片ノ損ヲナスノ理トナルナリ
然レト遺書税遺産税相續税ハ大抵年賦ヲ以テ納
税者ノ家入ヨリ拂フカ故ニ損失モ亦自ラ減スヘ
キナリ

斯レハ深ク經濟ノ理ヲ學フ者ハ資本ヲ以テ拂フ
ノ税ハ決メ通常ノ費用ニ適用スルヲ能ハサルヲ
知ルナルヘシ其故何トナレハ資本減却スレハ收
額從テ減却セサルヲ得サレハナリ然レ氏之レヲ
家入税ニ比スレハ國家ノ損失尙ホ少ナカラサル
ヘシ抑此ノ如キ税ハ國債ヲ償還スル為メニ用フ
ルヲ適當ナリトス何トナレハ縱令資本ハ減スヘ
ケレモ國債ノ重課ハ此レカ為ニ輕減スレハナリ

第一種

遺書税

一千八百六十七年一年度
百七十七萬三千磅

此税ハ動産ヲ遺傳スル時或ハ遺傳ノ動産ヲ管理
スル時ニ課スル所ノモノニシテ即チ平均資本ノ
百分ノ二ニ當ルナリ

第二種

遺產税

年度前ニ同
二百十六萬二千磅

此税ハ動産不動産ヲ論セス遺產ヲ承継スヘキモ
トナクシテ之レヲ公賣ニ付スルニ當テ課スル所
ノ税ナリ且此税ハ遺書税ヲ賦課スル外ニ課スル
モノニシテ即チ平均百分ノ二ニ當ルナリ然レ氏
或ハ良人死シテ婦人其遺物ヲ賣却シ或ハ婦人死
シテ良人其遺物ヲ賣却スル如キハ此限ニアラサ
ルナリ

第三種

相續税

七十二萬一千磅

此税ハ不動産或ハ既ニ承継ヲ定メタル動産ヲ承
継スル者ニ課スルナリ然レ氏或ハ良人死シテ婦

人之レヲ承継シ、或ハ婦人死シテ良人之レヲ承継スル如キハ此限ニテラス、但シ此税ハ承継者カ終身ノ産トシテ受クル所ノモノヨリ得ル所ノ利益ノ量ニ從テ課スルモノニシテ、即チ平均百分ノ一分五釐ニシテ遺產税ニ比スレハ輕シトス

第四種

遺產印紙税

百六十萬二千磅

此税ハ遺產讓與ノ時ニ當テ其書類ニ課スヘキモノニシテ太抵ハ資本ヨリ拂フナリ、然レ氏納額ハ少許ニシテ且期日ヲ足ムルナキヲ以テ、納税者ハ敢テ其非常ノ費用ヲ念トセサルカ故ニ、之レカ規矩ヲ設クルナリ、而シテ其收額ハ百磅以上ノ家入アル者ノ全歲入四億萬磅ノ百分ノ

三ト三分ノ一ヨリ多カラサルナリ

右第一種ヨリ四種ニ至ル迄

統計六百二十五萬八千磅

家入及ヒ資産ヲ以テ拂フ所ノ税額ハ統計一千三百七十四萬六千磅ニシテ、百磅以上ノ家入アル者ノ歲入四億萬ノ百分ノ三分五厘ヨリ少ナカラサルナリ、但シ右一千三百七十四萬磅ノ内九ノ百分ノ二ハ家入ヲ以テ拂ヒ又其百分ノ一分五厘ハ資本ヲ以テ拂ヒタル割合ナリ

第六章

○第二類 所出税

第二類ノ所出税ヲ大別シテ二項トナス、乃チ一項ハ建築物ニシテ家屋僕婢馬車ノ如キニ課スヘキ

税ヲイヒ、二項ハ食料及ヒ點心料ノ如キニ課スヘキ税ヲイフ、而シテ點心料ノ内ニハ茶、加非、酒精類、烟草等ヲ含ミタルモノナリ、蓋シテ所出税ハ國産税、海關税及雜課等ノ三種ノ大部分ヲ占メタルモノナリ

○第一項 建築物税

此税ハ特別ニ一歳二十磅以上ノ借料ヲ得ル家屋一歳百磅以上ノ家入アル借屋人ニ落ツルモノナリ、但シ其百磅以上ノ家入アル者ノ全額ハ四億萬磅ナリ

第一種

雜課 一千八百六十七年、八年ノ年度 百三十六萬磅

雜課ノ内ニハ家税、從僕税、馬車税、馬税、徵蹄税、徵蹄ヲ附スルキハ其徵蹄ノ税ヲ徵スナリ等アリ、乃チ家税ハ一歳二十磅以上ノ借料ヲ得ルモノニ課シ一般ニ其借料一磅ニ付九片ノ割合ヲ以テシ、又二十磅以上ノ借料ヲ得ル店舗ニハ其借料一磅ニ付四片ヲ課スルナリ、但シ家税ハ借家人ニ落テ家主ニハ落チサルナリ、又馬税ハ諸營業ニ用フル所ノ馬タリトモ統テ此中ニ入ル、ナリ

遊戲税 五十九萬磅

遊戲税ノ内ニハ競馬税、遊獵税、犬税、金銀四税等アリ、テ第一種ト大同小異ナリ、但シ犬税ハ耕作ニ用フル所ノ犬タリ此税ヲ課ス

第二種

火災保險稅

六十七萬四千磅

保險稅ハ家屋其他動産等ノ如ク保險ニ附托スル
トヲ得ラル、モノニ課スルコトニテ、乃チ其保險ノ
元價百磅ニ付一時吟六片ヲ課スルナリ、譬ヘハ家
屋家什ニテ二千磅ノ保險ニ托シテ其借料百磅ナ
ルモノアレハ一歳ニ三十磅ヲ課ス、故ニ課額ハ借
料ノ百分ノ一分五厘ニ當ルナリ

第一二種

統計三百六十二萬四千磅

但レ百磅以上ノ家入アル者、
收額九ノ百分ノ一ニ當ル也、

○第二項

食料及ヒ點心料ノ稅

第二項稅ヲ三種ニ區分シテ其實ヲ明瞭ニ知ルヲ
得セシムヘシ

第一種

必需品稅

一千八百六十七、八兩年ノ年度
八十七萬磅

此稅ノ内穀類稅アリ、乃チ此穀類稅ハ成文律中ニ
記載シタルモノニシテ一「ゴールト」ルニ付一
時吟ヲ課スルナリ

第二種

點心料稅

點心料茶加非砂、糖菓物等ハ今ヲ距ル百年前ヨリ以來男
貧富ノ別ナク一般ニ常食ニ垂クモノトナリタリ、
然レ氏或ハ慣習ニ仍テ用フルモノアリ、醫說ニ據
レハ點心料ハ第二等ニ位スル滋養品ナリト云、即

千必需ニ垂クノ意ナリ

茶税

二百八十二萬七千磅

加非椰子

但課税額ハ割合一ナリ
付六片ノ割合一ナリ

砂糖税

五百六十四萬六千磅

輸入菓物及西穀米等ノ税

四十四萬七千磅

點心料税

統計九百四十七萬磅

第三種

酒精烟草税

酒精烟草税

如キモ亦奢侈物ニシテ之レヲ用フ
ル丁過度ナレハ健康ヲ害シ終ニ國家ニ災害ヲ醸
スヘキヲ以テ宜ク厚歛シテ之レヲ防カスンハア
ルヘカラス

葡萄酒税

平均一噸加倫
二付二噸加倫
噸課税

麥酒税

平均一噸加倫
二付二噸加倫
噸課税

燒酎税

平均一噸加倫
二付二噸加倫
噸課税

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

此税ハ國產稅ノ法一ヲ以テ英國人海關稅
法ヲ以テ而ノ外國人ハ別チ平均一加倫ニ付
十噸吟

烟草税

六百五十四萬磅

平均一磅ニ付三
時令四片ヲ課ス

共計二千九百十二萬磅

食料點心料其他

統計三千九百五十六萬磅

右ノ統計ハ大英國ノ國縣稅實收ノ殆ント半額ニ
シテ全國ノ概入ハ億萬磅ノ纔ニ百分ノ五ニ當ル
ナリ、右ノ内必需品及ヒ點心料ハ一千零三十四萬
磅ニシテ、燒酎稅、烟草稅ハ二千九百十二萬六千磅
ナリ、尚ホ此レニ由テ思考スルニ燒酎稅、烟草稅ハ
小賣商人ノ手ヲ歷テ納メタル家入稅ノ如シ、而シテ
此兩稅ハ全國ノ男女老少ヨリ拂フモノニテ、之レ
ヲ各人ノ家入額ニ比スレハ一磅ニ付一時令ヲ納

ムルノ割合ナリ

第七章

○第三項

職業及文業稅郵便稅

第三項ノ稅種ハ職業及文業醫師代
言人法律
師如キヲイフ等ニ
課スル所ノモノニシテ通常ノ營業免許稅等ヲイ
フナレバ鐵道切手ニ課スル如キモ亦此内ニ入ル
、ナリ、凡ソ有稅物ヲ發賣スル者ハ稅ヲ輸スカ為
メニ其物價ヲ騰貴セサルヲ得スト雖モ、無稅品ヲ
賣ル者ハ免許稅ヲ拂フナキヲ以テ然ルナリ
トス、乃チ茶商人、葡萄酒商人等ハ免許稅ヲ拂フナ
レバ鐵器商人、羅紗商人、如キハ免許稅ヲ拂ハカ
ルナリ、然ルニ茶商人、葡萄酒商人等ハ其發賣物品

ニ税ヲ課セラル、ノ外別ニ營業稅ヲ課セラル、
カ故ニ二重ノ税ヲ納ムルコトナリ、此レカ為メニ
顧主ヲ失ヒ所得ヲ損スルコト甚ナカラス、然ルニ鑛
器羅紗等ヲ賣ル者ハ能ク此損失ヲ免カル、ナリ、
此ノ如ク不公平ナレバ昔時ハ文化未タ開ケサリ
シカ故ニ、當時ノ政府ハ猶ホ之レヲ至當ノ事トシ
テ守リタリキ
右ニ開説シタル所ノ税ヲ四種ニ區分シテ左ニ示
スヘシ

第一種

文業及尋常ノ職業稅 五十七萬六千磅

内譯

代訟師、財產管理人、銀行、糶賣人、金銀器商

第二種

人質、屋、鷹師、骨牌、匠、賣藥師、醋石、驗紙、匠、發
明ノ免許ヲ得タル者、茶、加非ノ中買

商用證券類ノ税 百九十四萬九千磅

内譯

兌換證書 八十二萬磅

銀行領收證其他証券 五十六萬二千磅

海上保險、火災保險、海關稅ノ一部

五十六萬七千磅

第三種

酒精、菸、烟草商ノ税 百六十六萬八千磅

内譯

葡萄酒 十三萬二千磅

釀造家麥芽商麥酒商 七十五萬磅
 酒精商蒸溜者 七十萬五千磅
 烟草商烟草製造人 八萬一千磅

第四種

輸送稅并雜課 二百三十六萬磅

內譯

驛馬并賃借馬車 二十八萬磅

鐵道 四十八萬六千磅

驛通局 諸入費ヲ引去ル 百五十一萬七千磅

右四種

統計六百五十六萬磅

右ノ統計ハ國民歲入ノ百分ノ七厘五毛餘ニ當ル
 ナリ

是等ノ租稅ハ實際上如何ナル人ニ落ツヘキカ之
 レニ答辨ヲナスモノ解ナカラス或ハ需用者ニ落
 ルトイヒ或ハ商人ニ落ツルトイフ其論紛々トシ
 テ一定セサレハ宜ク各營業ノ行情ニ由テ思考ヲ
 運テスヘシ

文業其他尋常ノ職業及ヒ茶加非等ノ商人ハ大抵
 其家入ノ内ヲ以テ稅ヲ拂フナリ其故何トナレハ
 營業免許ニ制限アルヲ以テ課稅ノ為メニ物價ヲ
 騰貴セシムルヲ得ス又大商ニ至テハ課稅ヲ意ト
 セス互ニ相競テ價格ヲ折扣スルカ故ニ復タ高價
 ニテ售賣スルヲ能ハレハナリ又受領証并銀行
 証券ノ稅ハ其課額少許ナルヲ以テ小賣商人ノ家
 入ノ内ヲ以テ拂フナリ鐵道并郵便馬車稅ノ如キ

ハ貨錢ニ定規ノ制限アリ、且乗客人之レヲ拂フニ
自ラ定限アルカ故ニ、貨錢ニ稅ヲ含蓄シテ收得ス
ル能ハサレハ是亦多クハ持主自ラ之ヲ輸スナリ
然レ氏兌換証書稅ハ商用費銀ノ一部分トナリテ
問屋或ハ小賣商人之レヲ物價ニ加ヘテ償フナリ、
又釀造人、麥酒、酒精、烟草、葡萄酒等ノ商人、英質屋等
ハ課額ヲ顧主ニ負ハシムヘキ特別ノ利益ヲ占メ
タルヲミナラス是等ノ物品ニハ海關稅英國產稅
ヲ以テ重ク課シタルカ為メニ、之レヲ口實トシテ
其物價ノ百分ノ五厘ヨリ一分迄ノ増額ヲ加ヘテ
物價ヲ騰貴セシメタリ、事ハ次章ニ於テ論セントス
郵便稅ノ殘額即チ諸費用ヲ除キタルモノハ各人
ノ費額ノ内ヨリ拂フモノトス

第八章

府縣稅 關門稅

府縣稅ノ課額ヲ見ントスルハ甚タ難キ事ナリ、英
國ノ諸都府、城市ニ就テ之レヲ求ムルモ曖昧模糊
トシテ更ニ其形狀ノ以テ察スヘキモノナク、就中
蘇各蘭ノ如キハ最モ搜索スヘカラサルモノ多シ、
是故ニ課稅ノ厚歛ト其形勢トヲ明瞭ナラシムル
能ハサルナリ、昔時撒遜人ハ中央集權ヲ欲セサル
カ為メニ各縣ノ事情常ニ相通セス、故ヲ以テ不均
不正ノ賦課ヲナシタル丁酷シク、是ヲ以テ各縣互
ニ其形狀ヲ異ニシテ曾テ二縣同一ノ賦課ヲナシ
タルヲ見サルナリ、然ルニ財產ニ課スルノ稅ハ大
抵左ノ如シ

英蘭	海貧費 ヲ合ス	田土ノ就直	郷邑費額ヲ課ス元價
蘇各蘭	豫美	一億一千百萬磅	九千四百萬磅
愛爾蘭	就直ニ據 テ豫美ス	一千六百萬磅	一千四百萬磅
		一千五百五十萬磅	一千三百萬磅
		合計一億四千五百萬磅	合計一億二千百萬磅

左ニ列示スル所ノ科目ハ總テ稅額ト費額トヲ確
定シタル後ニ照査セシモノナリ則チ英蘭ノ額ハ
一千八百六十七年愛爾蘭ノ額ハ一千八百六十五
年ノ調ニ據ル然ルニ蘇各蘭ハ濟貧費ヲ除ク外
ハ總テ布告スル丁ヲ許サ、ハ英愛二國ノ比例
ヲ取テ豫美ヲ立テタルナリ

第一 濟貧費

英蘭 六百九十六萬磅
蘇各蘭 八十萬八千磅
愛爾蘭 七十九萬七千磅
共計八百五十六萬五千磅

但シ右ハ就直ノ百分ノ六或ハ七ニ當ル

第二 縣費

但シ縣内一般ノ入費、警備、察費、道路修繕費、門關稅、
浚溝、賣放水、賣堤防費、橋梁費、并寺院費ノ一部ヲ
含有スルナリ

英蘭 四百二十九萬八千磅
蘇各蘭 五十五萬磅
愛爾蘭 大陪審費四十分
ノ三ヲ合ス 八十七萬二千磅
共計五百七十二萬磅

第三

城市費

但シ縣務取扱費、コルポレシヨシノ、費材費、修良費、委員費、各官局費、瓦斯燈、建築費、開市費等ヲ含ハスルナリ

英蘭

コルポレシヨシノ、財產五十萬磅ヲ合ス

四百五十一萬磅

蘇各蘭

豫算

六十五萬磅

愛爾蘭

大陪審費、四ノ一ヲ合ス

七十八萬磅

共計五百九十四萬磅

第四

海務ニ関スル費額

但シ噸稅、松稅、海上引路費、燈臺費等ヲ合ス

英蘭

百八十七萬二千磅

蘇各蘭

二十五萬磅

愛爾蘭

二十一萬三千磅

共計二百三十三萬五千磅

右統計二千二百五十六萬磅

右總額ノ内純粋ノ縣費ハ一千八百五十萬磅ニシテ乃チ全國ノ餉直一億四千萬磅ノ平均百分ノ十三ニ當リ、一磅ニ付三吋吟ナリ、然レ氏實際工ノ算計ニ據レハ六吋ヨリ十吋吟ニ當ルナリ

第九章

諸稅額總計ノ事

左ニ開示スル所ノモノハ諸稅科目ノ要領ニシテ最モ精密ナルモノトス

○國稅

一千八百六十七、八兩年ノ年度ニ據

第一項

家入并財產稅ノ事

家入并財產稅

六百十七萬七千磅

地稅

百九萬三千磅

裁判費

二十一萬八千磅

共計七百四十八萬八千磅

資財ヲ以テ拂フ稅ノ事

遺書稅

百七十七萬三千磅

遺產稅

二百十六萬二千磅

相續稅

七十二萬一千磅

印紙稅

百六十萬二千磅

共計六百二十五萬八千磅

第壹項

統計一千三百七十四萬六千磅

第二項

雜課ノ事

家稅

二百三十六萬磅

競馬金銀四類銃獵飼犬等ノ稅

五十九萬磅

火災保險稅

六十七萬四千磅

共計三百六十二萬四千磅

穀類并茶其他ノ稅

必需品稅

即穀類

八十七萬磅

羊需品稅

茶加非砂糖ノ類

九百四十七萬磅

共計一千三十四萬磅

烟草酒精稅

二千九百十二萬磅

第二項

統計四千三百八萬四千磅

第三項

職業文業稅 輸送稅 / 車

文業稅 尋常職業稅 五十七萬六千磅

商用証券稅 百九十四萬九千磅

酒精烟草營業稅 百六十六萬八千磅

輸送稅 其他稅 二百三十六萬七千磅

共計六百五十六萬磅

國稅

總計六千三百三十九萬磅

○縣稅

第六項

府縣稅門關稅

濟貧費 八百五十六萬五千磅

縣費門關稅 五百七十二萬磅

城市費 コルポレシヨシノ財產ヲ除ク 五百四十五萬磅

共計一千九百七十二萬五千磅

國府縣稅

總計八千三百一十一萬五千磅

○稅外收入

但シ國稅ノ部中ニ入ルヘキ分

コルポレシヨシノ財產 五十萬磅

噸稅其他港口費額 二百三十四萬磅

共計二百八十四萬磅

右六項

總計九千二百一十一萬五千磅

Faint, illegible markings or bleed-through from the reverse side of the page.

A grid of vertical red lines forming columns on a page. The grid consists of 12 columns of varying widths, enclosed within a red border. The lines are evenly spaced and extend across most of the page's width.

天
雅
果

